

# 糸繰沼

長谷川時雨

青空文庫



湖、青森あたりだとききました、越中から出る薬売りが、  
 蓴菜が一ぱい浮いて、まっ蒼に水錆の深い湖のほとりで午  
 寐るねをしてしていると、急に水の中へ沈んでゆくような心こころもち地ちがしだ  
 したので、変だと思っていると、何処どこでか幽かすかに糸いとぐるま車を廻まわす  
 音がきこえたともうします。おやと気をつけると、暗いところが  
 ほんのり明あかるくなつて、自分は沈みもしなければ浮うきあが上りもしな  
 いで、水の中にふつと止まっている。向うを見ると、薄うつすらと  
 人陰ひとかげが見えて、糸を繰くる音がする。心を定めてよく見直すと、  
 品の好よい老女としよりで、糸を繰る手はやめなかつたが、振返ふりかえつて薬  
 売りを流し眼に見て「返してやるのではないが、お前に言便次ことづけを

してもらいたいから、助けてあげる。」と言つて「奥州閉伊郡り なかづまの中妻の里というところに、こういう家うちがあるからその家へ行つて、おばあさんは此処ここにこうやっていると伝えてくれ。」と頼まれたかと思うと、おばあさんの姿も、糸車の音も消えて、薬売りは人の助けに生返いきかえつたのでした。無言だまつていろと口をかためられたのですから、薬売りは一人で気味悪わるがりながら、その家うちが誠まことにはないようと祈つたり、そんな馬鹿馬鹿ばかばかしいことがありようはないと思つたりして、それでも「池の主ぬしになつてゐるから、姿をかくしたが安心してくれ。」という伝言ことづけをせねば、自分の重い役が一生とれぬ心こころ地もちもするので、てくてく中妻の里を忘れもせずに商しょう業ぎしながら探ねてあるくと、或日ある言われた

通りの、門構えの家を探ねあてたのでした。薬売りは顛えあがつたそうで、兎に角主人にあつて、その顛末を語りますと、主人のいわれるには、思い当ることがあるというのです。そのお家は近江源氏佐々木家と共に、奥州へ下向されたという古い家柄で、代々阪上田村麿將軍の旧跡地に、郷神社の神官をしていらつしやるとかで、当主より幾代か前の時、長く病らつて、一間に籠つたまま足腰のきかなかつたおばあさんが、ふと陰をかくして、行方知れずになつたということがあるというのです。そこで水の底で助けて歸されたことを、薬売りが咄しますと、主人も驚いたには違いありませんが、その御主人の言葉に「毎年秋祭りの前後に、はげしい山おろしが吹荒れると、中妻のおばあさんが

来たということ、里の者は何の訳か言いつたえている。春の祭りがすむころ吹くと、おばあさんが帰ったという。「ときいて、薬売りがぞつとしたのは、水の底にいたおばあさんが「私はこんなに遠くにいても、家のことうちや村のことは守っている。」と言つたのを覚えていたからなのでした。なんでもこの咄はなしはさほど古いことではないのでしよう、私わたくしはその村で、そのお家うちと近しくしている方からききました。そのお家うちの子供衆こどもしゆがた方の咄はなしでは、おばあさんの来るといふ日の夜に限つて、山から狐が沢山に下りて、そのお宅あれの縁側は、土でざらざらになるのと、きつとその日は雨風あれで暴るといふことです。





# 青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇 百物語怪談会」ちくま文庫、  
筑摩書房

2007（平成19）年7月10日第1刷発行

底本の親本：「怪談会」柏舎書楼

1909（明治42）年発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2007年11月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 糸繰沼

長谷川時雨

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>